



2011.2.18
第144号

発行
福島県市町村教育委員会
連絡協議会
北会津支会
耶麻支会
両沼支会

編集
福島県教育庁
会津教育事務所

編集協力
小・中学校長会

「会津に学ぶ」



会津教育事務所
業務次長 箱崎 一三彦

発信されることとなる。

福島県の教員となり三十三年が経ち、その間の会津勤務は三回を数え通算すると十一年目が過ぎようとしている。この会津の地で教員として必要なこと、教えることの喜びや感動、保護者や地域との関わりなど多くのことを学んだ。特に、古から脈々と受け継がれてきた会津人の教育に対する思いは、教師に必要な不変のものが多く、現在に至っても大きな影響を受けている。今春からは、その一つである日新館の「仕の掟」が検定教科書に掲載され、全国に「ならぬこととはならぬものです」の精神が

初めて会津勤務は新採用の時であった。よそ者に対する取っつきにくさに悩み、やがて温かな心に触れ、会津を去るときは離れがたくて泣かされた。人の出会いと別れがこんな切ないものかと感じ、そして教師のやりがいとその責任の重さを知った。子どもたちの期待に応えようと無我夢中に過ごす中で、教師とはどうあるべきかを子どもたちや地域の方々から教えられた貴重な六年間であった。

数年後、生徒指導で苦労していた時期にテレビで「白虎隊」が放映された。主題歌「愛しき日々」に綴られた真っ直ぐな会津人の生き方は、かつての希望

に燃えていた新採用時代を思い起こさせた。易きに流れかけていた自分を見直し、初心に戻り子ども達に向き合う契機となった。当時は教師として節目の時でもあり、第一のふるさとと思っている会津が話題になったことが誇らしかった。

現在、会津の教育行政に携わり、多くの方から「会津はひとつである」と聞かされている。それぞれの地域が郷土に誇りを持ち、恵まれた自然環境や地域の持つ多様性を十分に生かし、各市町村がそれぞれに特色ある地方行政を推し進めながら会津域内の教育力の向上を目指している。そのような会津人の持つ心と絆は、本県の第6次福島県総合教育計画における教育施策の実現に向けた大きな推進力となると考えている。



各種受賞紹介 敬称略

文部科学大臣表彰

○優秀教員

会津若松市立城北小学校	教諭	大西 圭子
会津若松市立荒館小学校	教諭	入澤みどり
会津若松市立一箕中学校	教諭	小寺 真紀
会津若松市立一箕中学校	養護教諭	佐藤美恵子

県教育委員会表彰

○学校教育功労者

会津若松市立謹教小学校	校長	佐藤 玄
会津若松市立第四中学校	校長	渡部 裕二

○優秀教職員

会津若松市立城南小学校	教諭	猪野 典由
会津美里町立本郷第一小学校	教諭	平塚 学
喜多方市立塩川中学校	養護教諭	舟城 敬子

○社会教育関係

- ・社会教育団体
- 西会津町立西会津中学校父母と教師の会
- 喜多方市若月町婦人会

○文化財関係

- ・功績顕著な団体・施設
- 昭和村からむし生産技術保存協会

○学校体育・学校保健関係

- ・功績顕著な団体・施設
- 湯川村立勝常小学校

県学校給食優良団体・功労者表彰

- 会津若松市立謹教小学校
- 会津坂下町立学校給食センター

県学校歯科保健優良校表彰

- 最優秀賞 喜多方市立第一小学校
- 喜多方市立姥堂小学校
- 三島町立三島小学校

県学校保健優良学校・功労者表彰

○学校保健功労者

喜多方市立第一小学校	学校医	手代木康一
会津若松市立東山小学校	学校歯科医	小汲三代太
喜多方市立第二中学校	学校歯科医	松崎 賢治
会津坂下町立第一中学校	学校歯科医	中島 輝哉
会津若松市立永和小学校	学校薬剤師	関 孝一
喜多方市立第一中学校	学校薬剤師	清水 純子
福島県立喜多方桐桜高等学校	養護教諭	渡部 知江

県教職員研究論文入賞者

- 特選 会津若松市立城南小学校 教諭 菅家 篤
- 入選 喜多方市立松山小学校 教諭 高原 昇

県学校緑化コンクール表彰

○学校緑化の部

- ・教育長賞 会津美里町立本郷第一小学校
- ・福島県林業協会会長賞 会津若松市立湊小学校
- ・福島県林業協会会長賞 会津若松市立川南小学校

地球温暖化防止のための「福島議定書」事業表彰

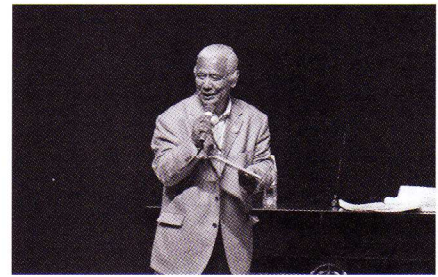
- 最優秀賞 福島県立猪苗代養護学校
- 入賞 会津若松市立城西小学校

総務社会教育課 研修会 News

1 達人に学ぶ！！読み聞かせ実践講座

- (1) 日時 平成22年12月16日(木)
- (2) 会場 会津若松市文化センター
- (3) 内容 「読み聞かせ」についての講演・演習
- (4) 参加者の感想

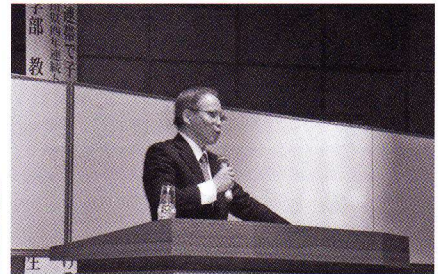
- ・ 楽器の音色が心地よく響いて気持ちが落ち着きました。
- ・ 自分がさせていただいている読み聞かせボランティアの活動をするにあたってすごく勉強になりました。
- ・ 民話を伝える本質について考えさせられました。
- ・ 読むことの大切さ(幅の広さ)を改めて感じました。
- ・ こういう講演は初めてで、「目からうろこ」でした。改めて絵本の大切さを実感しました。



2 「しつけ・学習習慣で子どもの生きる力を伸ばそう」(家庭教育サポートセミナー)

- (1) 日時 平成23年1月20日(木)
- (2) 会場 会津大学
- (3) 内容 「家庭教育」についての講話・講演
- (4) 参加者の感想

- ・ 学力向上には、学校の授業が最も大切ということをお聞きして、今一度、学校の授業に関心を持ちました。「学校、家庭、地域の連携」で、私たち、保護者に何ができるか、改めて考えたいと思いました。
- ・ 愛情で大切なことは「ふれあうこと、よく見ること」だと感じました。普段の生活に沢山あることも確認できました。
- ・ パワー溢れる講演、ありがとうございました。水戸先生がお話しされたように「まっ、いいか！」の精神で頑張りたいと思いました。



「全国学力・学習状況調査」を通して 学校教育課

抽出方式で行われた平成22年度全国学力・学習状況調査における福島県の結果概要については、以下のように総括されます。

- 本県児童生徒の学力の実態については、国語は昨年度と同様、おおむね全国平均レベルにあるが、算数・数学については課題が見られる。
- 今回の調査においても、知識・技能のより確実な定着と、これらを活用して課題を解決する力の育成に課題が見られる。

この結果を受けて、緊急の学力向上対策会議が開催され、その結果をまとめた「子どもたちの生きる力を支える『確かな学力』の向上への取組みについて」が市町村教委に対して通知されました。各学校においても喫緊の課題である学力向上について取り組んでいただいているところです。

学校訪問では、授業の様子からだけでなく研究協議会の内容からも、各学校が「学力向上グランドデザイン」を修正しながら、「確かな学力」の定着を図るため、言語活動を積極的に取り入れるなど指導方法を工夫する様子が実感として感じられました。また、域内の各学校の取組みが先進的な取組みとして新聞等に掲載されたことも頼もしい限りです。感謝申し上げます。

平成23年度に向けた取組みとして配慮していただきました

い事項について通知内容も踏まえて以下にまとめましたので参考にしてください。

- (1) 思考力、判断力、表現力の育成を図るための言語活動の充実
- (2) 課題が見られた事項に関する、学校全体での組織的な対応
- (3) 「定着確認シート」の更なる活用の工夫
- (4) 文部科学省、県教委等が発行する資料の有効活用
 - 家庭学習プログラム開発校よりの発表資料
 - 「全国・学力学習状況調査において良好な結果を示した学校における取組事例集」会津教育事務所発行(以上2つ、2月9日学力向上担当者会で配付済)
 - 「授業づくりポイント集VOL.1~3」会津教育事務所発行(VOL.3については3月発行予定)
 - 「言語活動の充実」実践事例集 福島県教育委員会
 - 「全国学力・学習状況調査において特徴ある結果を示した学校における取組事例集」(第1集・第2集) 国立教育政策研究所発行
 - 「全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例」 国立教育政策研究所発行

我がまちからの情報発信

西会津町教育委員会

「先生は地域のおじさんとおばさん」

本町では、平成21年度から地域の方々が持っている特技や知識を学校の学習やクラブ活動、環境整備などに支援していただく「学校支援地域本部事業」に取り組んできました。地域の講師はもちろんボランティアで、学校とボランティアを結び事業の段取りをするのは学校支援コーディネーターです。

事業開始当初は、国のモデル事業で取組事例もなかったことから、学校の要望も少ない状況でした。その後、コーディネーターの努力の甲斐もあり、学校やボランティアの理解を得られ、支援内容も町特産のミネラル野菜栽培や加工体験、町内の文化財や史跡めぐり、福祉についての勉強や施設見学など幅広い事業に取り組むことができました。

ミネラル野菜栽培の学習では、ボランティアの農家の皆さんが先生となり、土作りから栽培、収穫など専門的な指導にあたり、子どもたちはモノを作る喜びや収穫する楽しみなど、学校では味わえない体験を通して、子ども同士の交流や地域への理解を深めることができました。

この事業では、多くの地域の皆さんにボランティアとして、協力をいただいております。地域の方々が学校との関わりを持ち、子どもとの絆を深め、地域ぐるみで子どもを見守り、育てようとする意識がさらに高まっているようです。



規範意識

柳津町教育委員会教育長

新井田 明義



放課後子ども教室が行われていた本町の公民館で、ある男の子がふざけながら長椅子の上を飛び跳ねていたので

「危ないからやめなさい」と注意をしたが、一向に止めようとしないう。そこで再度語気を強めて注意したところ、不可解な表情をしながらようやく椅子から降りた。注意をされても直ぐに止めようとはしなかったのは、この男の子には、なぜ注意をされたのかがよく理解できなかったからなのかもしれない。

今、子どもの規範意識の低下が問題となっている。子どもの規範意識の低下の原因は、家庭や地域の教育力の低下や体験活動不足などが考えられるが、何よりも大人自身の規範意識の薄れが最も大きな要因ではないかと思われる。規範意識を育てるために、まず、大人たちが子どもの模範となるよう襟を正すとともに、家庭、学校、地域が一体となって、子どもたちに、叱るべきは叱り、善悪を教え、社会人としての基礎・基本を身につけさせることが必要である。今こそ会津の仕の掟「ならぬことは、ならぬものです」の精神を大切にしたいものである。

特別支援教育充実のために
～キーワードは「連携」～

特別支援教育は、教育上特別な支援を必要とする幼児児童生徒一人一人のニーズに応じた適切な指導や必要な支援を行うものです。平成19年度から改正学校教育法の施行により、幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校において、支援体制の整備が進められています。

県教育委員会では、第6次福島県総合教育計画において、「障がいのある子どもたちが『地域で共に学び、共に生きる』教育を推進します」とし、地域における支援体制の整備・充実と理解啓発の促進等を今後の取組みとして位置づけています。その一つとして、特別支援教育総合推進事業を展開しています。会津域内では、他の地域がモデルとする地域として、会津美里町が特別支援教育重点推進地域となり、発達障がいを含む障がいのある子どもの乳幼児期から成人期に至るまで一貫した支援方策について具体的に検討していくことになりました。同町では、教育委員会が主体的に各学校や保育所のニーズに応え、外部講師を招聘しての校内研修やケース会議を実施したり、地域住民を対象とした理解啓発セミナーを開催したりするなど、活発な取組みがありました。さらには、

教育と保健・福祉サイドとが連携を図るために「特別支援連携協議会」を発足させ、教育上支援を必要とする子どもたちや保護者への支援策を協議し、関係機関相互のネットワーク化を推進しています。今後、相談支援ファイルを作成し、関係者へ配付する予定になっています。

今年度から教育事務所内には、会津域内13市町村教育委員会の就学指導担当者と県教育庁特別支援教育課、会津保健福祉事務所、養護教育センターの担当者を構成メンバーに「特別支援教育体制促進協議会」が設置されました。各教育委員会と関係機関が連携し、会津全体の特別支援教育の体制整備と支援の充実を図るための在り方を協議していきます。



(特別支援教育理解啓発セミナーの開催)
講演 阿部 利彦氏 (所沢市教育委員会)

作品と指導

工作

『おしゃれつぎ姉妹』



喜多方市立熊倉小学校
3年 遠藤光郁

靴下や手袋など自分で集めた材料に詰め物をして、生まれた形を生かして愉快的仲間を作りました。

ピンクの軍手で作ったうさぎに、靴下を切って服を着せお揃いの感じを出し、女の子らしい飾りを付けました。

指導者 小林 美智子

絵

『旅立ち』



会津若松市立第四中学校
3年 柳田美咲

透視図法や線による構成を駆使し、グラデーションや対比を意識しながら制作しています。彩色の作業では時間がかかって、マスキングテープを使用しています。

指導者 福地 昌徳

習字

『探訪』



会津坂下町立第一中学校
3年 宮本佳奈

「探」も「訪」も偏とつくりのバランスを重視し、字形が横広にならないように留意しています。

丁寧な筆遣いと筆脈を意識して書くことにより伸びやかで勢いのある作品に仕上がっています。

指導者 弦弓 幸

私の抱負

豊かな人間性と人づくりを目指す教員体験研修(リーダー的教員)



会津若松市立城北小学校
教諭 山内 亮

企業の最大の目的は、利益の追求です。その達成のポイントの一つに、「ブランド化」があげられます。「ブランド化」とは、「品質が高い」などの「信頼」が前提になります。企業研修の三か月間、学校も「ブランド化」が必要ではないかと考えました。教育における「ブランド化」につながるのには「この特色ある学校で学ばせたい」「この先生に教えてほしい」などの「信頼」です。そのために大切なことは、結果を出さなくてはならないということ。勉強がわかる。「学校が楽しい」などの結果を出すことにより、児童や保護者の「信頼」を得られるのだと思います。とても難しいことですが、企業は結果を出すために大変な努力をしています。これから私自身も、「ブランド化」できるよう、さらに自己研鑽に励み、児童や保護者から「信頼」されるような結果を出さなければと心を新たにしました。

社教主事講習を受講して



北塩原村教育委員会
社会教育主事 佐々木 剛

二〇一〇年夏。私は「東北大学社会教育主事講習」受講という貴重な体験をさせていただきました。地域による学校支援の在り方について、実態調査を通して課題を把握し、課題解決に向けての提言をレポートにまとめました。この過程で、地域と学校を結ぶ「社会教育」の重要性を改めて認識しました。また講習を通して、学校教職員や他市町村職員の方々と寝食を共にさせていただいたことで、今後の仕事につながるネットワークを形成することもできました。我が北塩原村は、人口三三〇〇人と小規模ですが、美しい自然・豊かな歴史のある村です。講習で学んだ事を活かして、村全体で取り組んでいる「日本で最も美しい村」づくりを目指し、今後とも公民館職員として頑張っていきたいと思えます。

「ふるさと」を支えに



シカゴ日本人学校
教諭 齋藤 和久

本校は、シカゴ市の近郊アーリントンハイッツ市にあります。自然豊かな恵まれた環境の中、国際社会で活躍できる人材を育てようと、先生方が一致団結して教育活動に取り組んでいます。以前、朝会で、ふるさとについて話をする機会がありました。「ならぬことはならぬ」という会津の教えを、子どもたちは真剣に聞いてくれました。確かに学力と同時に、日本人としての価値観や道徳性を身につけさせることも大切なことだと実感しています。まもなく、赴任して一年になりますが、アメリカに移住してきた最初の日本人が会津の人々であったことを知り、これからは郷土に誇りをもって仕事に励んでいこうと決意を新たにしています。